

Aspect News 180730 「手に乗る Web 観測点」



1 . 7月豪雨時、斜面観測を多地点で安定動作

お客さんにご利用頂いている斜面の観測システムが7月の豪雨や台風でも安定して観測し、大切な計測結果を残しています。短いものはこの6月から古いものは3年前から計測を開始し、安心してご利用頂けるシステムになっています。そして、収集されたデータが将来の防災に役立てばと願っております。



2 . 天然ダムと流れ出す河川の緊急水位観測に「手に乗る Web 観測点」が採用

明日、2台の水位 Web 観測システムを納品できないかとの急なお話を頂き、手元で社内試験中で安定動作しているシステムを急遽準備し出荷させて頂きました。出荷に翌日には現地で設置され、天然ダム水位と流れ出す河川の水位状態の Web 観測を開始する事が出来ました。左は、溜池水位監視の写真ですが天然ダムも同様です。



3 . LORA

LoRa を使った観測システムの開発が進んでいます。目標は、「手に乗る Web 観測点 AD4+DI2): LoRa モデル」を10台、最短1分間隔(通常10分間隔)で観測し、10分毎にゲートウェイに送信、10分毎(通常60分毎)に Web 更新するシステムを目指しています。設置可能範囲はゲートウェイから半径2 kmです。先日、多摩川や高尾山で通信試験を行い、河川敷で3 km、見通しの悪い森の中でも600~1 kmの安定通信を確認しました。

4 . 電池で柿林内の雨量と土壤水分4深度、1年連続電池で観測(まだ9.8V:先月から0.1Vの減り)

単2x8本で1年以上、雨量と土壤水分(4深度)の観測が丸一年、今月7月28日で1年を迎えました。現在も9.8Vで放電終止電圧の8Vまで1.9Vあり、これまで1月0.1Vの電圧降下を考えるとまだ19ヶ月、安全を考えると半分8ヶ月は持つ計算です。このシステムは警報やリアルタイム性がなく毎日手元にデータが欲しい条件なら十分な機能です。

